

## 今回出された成績について 【教育科学系】

レポート2回(25点×2)と試験(50点)で評価している。レポートについては、書き方がわかっていない学生が多く、特に1回目の評価がどうしても低くなる(コメントをつけて返すことで、2回目は改善される)。書き方指導をしたいと思うが、授業の趣旨からして適切でなく、断念している。初年次演習における習得を期待したい。試験に関しては、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題している。出題範囲が明確なため平均点が高く、今のような暗記型の試験でよいのか、今後再検討していきたい。

レポート1回(20点)と小レポート4回(30点)、試験(50点)で評価している。小レポートに関しては回数が多かったせいか出し忘れが多く、一部の学生の成績低下につながった。今後、「まなびネット」等を使って告知することも考えたい。試験に関しては、記述による用語説明を求めたが、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題したため平均点は高かった。ただし、ごく一部ではあるが、得点が6割に満たず単位取得に至らなかった受講者もいた。アンケートの自由記述には「他の科目のように穴埋めにしてほしい」という意見もあったが、科目によって評価方法が異なるのは当然のことであり、変更は考えていない。

・どの科目も「教員とのコミュニケーション不足」が一定の割合で挙げられており、200名教室および60名教室でのやりとりが課題である。  
・「生徒の指導と相談B」においては前回の反省を踏まえ、授業内容を7割程度に調整し扱うトピックスを絞った。教員の心理的・時間的ゆとりも得られ、教師・学生間、あるいは学生間のコミュニケーションも増加したため、授業評価が改善された。

受講態度は良く、全体的に良い成績を出すことができた。

全体的に受講態度は良く、比較的良い成績を出せたが、数人の学生の理解が不十分であった。

受講態度は良く、全体的に良い成績を出すことができた。

今回の学業成績については、試験・提出物・出席状況等を総合して評価した。  
学業成績は、試験の結果だけでなく、課題レポートや出席状況・日頃の受講態度なども加味して、総合的に評価していくことが必要である。

複数の観点から総合的に評価した。

授業の初めに評価内容と評価方法を学生に明示するようにしている。それに基づき、公正かつバランスよく、学生一人一人の学習姿勢や学習成果が反映されるよう評価している。

おおむね良好な結果が出ているので、引き続き講義の水準を維持していきたい。

問1(この授業で、新しい考え方や知識・技能が身についた)、問5(多様な考え方ができるようになった)など学生にとっての学びを扱ったものであり9割以上の学生は成果があると答えており、授業内容が伝わっていると考えられる。しかし、問6(教員の話し方は聞き取りやすい)、問7(教員の説明はわかりやすい)についてはそのように思っている学生は6割から7割であり、講義のプレゼンについては改善の余地が多く残る結果である。また、子どもの道徳性とその発達について心理学的視点に基づく説明は少々専門用語も入り、理解しづらい面もあると思われるので、より具体的な例をあげながら理解を更に図るよう進めていきたいと考える。

・小レポート、最終課題ともに、よく考え・勉強されていたと感じました。  
・ケースディスカッションの事前学習については、人によって取り組みに温度差があったように感じます。  
・講義内で取り上げた内容を覚えるだけにとどまらず、講義をきっかけに自信で学びを拡げ、深めてもらえるように良いと思います。

結果的にSとAが多くなってしまったが、ほとんどの学生が毎回出席をし、授業にもまじめに受け、課題に取り組んでいたため、妥当といえる。

私の話し方が悪く、学生さんに申し訳なかったと思います。授業には熱心に参加してくれていますが、興味関心を高める授業を提供できていませんでした。

おおむね授業態度はよく、最終試験についてもそれぞれ準備をして臨んだ様子をうかがうことができた。

全般にわたって「そう思う」という回答が多いので、よかったと思う。課題としては、学生の皆さんが授業で提示された課題について調べる回数をもっと多くした方がよかったと考える。

OBとして、後輩を厳しく査定するには、抵抗がある。もちろん、甘くしつけているわけではないが、全体にまじめであり、そこそこの成績で提出している。

- ・学生の受講態度は概ね良好であったと考える
- ・活動や課題への取り組みに際して、学生の意欲や積極性の差が発表および作品、レポートの質などに影響したと考える

1限の学生さんは理系、2限の学生さんは文系専攻で、自然科学系の学生さんにも、もっとがんばってもらいたいです。

学生の思いを知ることができ、有り難く思います。

おおむね授業態度はよく、最終試験についてもそれぞれ準備をして臨んだ様子をうかがうことができた。

わずか16回の授業であるが、学生が、少しでも生活科に対する新たな考え、教科としての意義を理解できるように、これからも、努力していきたいと思っている。

- ・成績をつけるにあたっては、毎回のコメントシートによる授業内容の理解度と学びの視点の幅、深さ、演習への参加姿勢、数回の小論文、冬季課題、定期試験を点数化し、総合的に判断し評価した。
- ・授業の回数がすすむごとにコメントシートに記述される内容に、人間的な成長がみられた。授業における演習の対話の雰囲気が和やかで受容と共感的理科にあふれ、一つの学級の様相がみられた。
- ・コメントシートの記述が、回を重ねるごとに理解度が深まり、優れた表現力、また筆力説得力もあり、問題意識のあるものには、加点をした。将来の活躍を願い期待するものである。

全体として、おおむね良い評価を受けたと感じる。

授業での積極性、コメントにより総合的に評価した。

レポート2回(25点×2)と試験(50点)で評価している。レポートについては、書き方がわかっていない学生が多く、特に1回目の評価がどうしても低くなる(コメントをつけて返すことで、2回目は改善される)。書き方指導をしたいと思うが、授業の趣旨からして適切でなく、断念している。初年次演習における習得を期待したい。試験に関しては、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題している。出題範囲が明確なため平均点が高く、今のような暗記型の試験でよいのか、今後再検討していきたい。

レポート1回(20点)と小レポート4回(30点)、試験(50点)で評価している。小レポートに関しては回数が多かったせいか出し忘れが多く、一部の学生の成績低下につながった。今後、「まなびネット」等を使って告知することも考えたい。試験に関しては、記述による用語説明を求めたが、「まとめ」の部分から穴埋め方式で出題したため平均点は高かった。ただし、ごく一部ではあるが、得点が6割に満たず単位取得に至らなかった受講者もいた。アンケートの自由記述には「他の科目のように穴埋めにしてほしい」という意見もあったが、科目によって評価方法が異なるのは当然のことであり、変更は考えていない。

授業内での活動と提出物(50点)と試験(50点)で評価している。グループで指導計画を準備して模擬授業を行って、それを相互評価する活動が中心になるため、当日に欠席したり、それによって提出物が出せなかったりすると、どうしても評価が低くなる。アンケートで「提出物の出し方を工夫してほしい」という自由記述もあったので、今後は「まなびネット」の利用などを検討したい。試験に関しては、これまで穴埋め問題だけだったが、今年から新たに記述問題を追加した。平均点は例年通り高かったので、しばらくこの方式でやってみたい。